



障害者雇用の取組紹介 シンワ精機株式会社

はじめての障害者雇用 株式会社農業公園信貴山のどか村

障害者の雇用促進と職場定着を進めるには

特別支援学校 奈良県立奈良西養護学校

福祉事業所レストラン / スウィーツ甲子園奈良大会グランプリ事業所紹介

インタビュー
Interview 奈良県立高等技術専門校 販売実務科

奈良県 奈良労働局
(障害者施設で作成しました)

障害者就労支援機関

公共職業安定所

職業紹介等職業に関するあらゆる相談を行います。特に公共職業安定所には専門の職員が配置されていて、きめ細かな相談に応じています。

ハローワーク奈良	〒630-8113 奈良市法蓮町 387 (奈良第 3 地方合同庁舎内)	TEL 0742-36-1601 FAX 0742-36-1608
ハローワーク大和高田	〒635-8585 大和高田市池田 574-6	TEL 0745-52-5801 FAX 0745-53-4181
ハローワーク桜井	〒633-0007 桜井市外山 285-4-5	TEL 0744-45-0112 FAX 0744-45-3990
ハローワーク下市	〒638-0041 吉野郡下市町下市 2772-1	TEL 0747-52-3867 FAX 0747-52-0406
ハローワーク大和郡山	〒639-1161 大和郡山市観音寺町 168-1	TEL 0743-52-4355 FAX 0743-55-0670

障害者就業・生活支援センター

職業生活における自立を図るために就業及びこれに伴う日常生活、または社会生活上の支援を必要とする障害のある人に対し、雇用、医療・保健、福祉、教育等の関係機関との連携を図りつつ、身近な地域において必要な指導、助言その他の支援を行います。

なら障害者就業・生活支援センター コンパス	〒630-8115 奈良市大宮町 3-5-39 やまと建設第 3 ビル 302	TEL 0742-32-5512 FAX 0742-93-7712
なら東和障害者就業・生活支援センター たいよう	〒633-0091 桜井市桜井 232 ヤガビル 3 階 302 号室	TEL 0744-43-4404 FAX 0744-43-4404
なら西和障害者就業・生活支援センター ライク	〒639-1134 大和郡山市柳 2-23-2	TEL 0743-85-7702 FAX 0743-85-7703
なら中和障害者就業・生活支援センター ブリッジ	〒634-0812 橿原市今井町 2-9-19 今井長屋 1	TEL 0744-23-7176 FAX 0744-23-7181
なら南和障害者就業・生活支援センター ハロー Job	〒638-0821 吉野郡大淀町下湊 158-9	TEL 0747-54-5511 FAX 0747-54-5501

奈良障害者職業センター

障害のある人に対して、ハローワーク(公共職業安定所)と協力して、就職に向けての相談、職業能力の評価、就職前の準備訓練から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害のある人の状況に応じた継続的なサービスを提供します。

奈良障害者職業センター	〒630-8014 奈良市四条大路 4-2-4	TEL 0742-34-5335 FAX 0742-34-1899
-------------	----------------------------	--------------------------------------

独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

高年齢者等及び障害者の雇用に関する相談・援助、助成金の支給申請の受付、障害者雇用納付金制度に基づく申告・申請の受付、啓発等の業務を実施しています。

奈良支部	〒634-0033 橿原市城殿町 433 奈良職業能力開発促進センター(ポリテクセンター奈良)内	TEL 0744-22-5232 FAX 0744-22-5234
------	---	--------------------------------------

発行元	奈良県福祉医療部障害福祉課 〒630-8501 奈良市登大路町 30 番地 TEL 0742-27-8514 FAX 0742-22-1814	奈良労働局職業安定部職業対策課 〒630-8570 奈良市法蓮町 387 番地 奈良第 3 地方合同庁舎 2 階 TEL 0742-32-0209 FAX 0742-32-0225
作成	社会福祉法人ぷろぼの 〒630-8115 奈良市大宮町 3 丁目 5-39 第 3 やまと建設ビル 201 号 TEL/FAX 0742-81-7032	

シンワ精機株式会社



チャレンジすることで広がる可能性

産業機械・工作機械の機械部品を製造し、製缶溶接、機械加工、塗装、組立まで社内一貫生産を行っているのが、桜井市安倍木材団地にあるシンワ精機株式会社です。今回は、スキルアップに励みながら、着実に力をつけていく障害のある若者を雇用する同社を訪問し、障害者雇用のきっかけや雇用後の様子、また実際に同社で働く当事者にお話を伺いました。



シンワ精機株式会社の外観

シンワ精機株式会社（以下、「シンワ精機」）は、産業機械や工作機械の大型鋳物部品の加工や溶接構造部品などの機械の製造を行っている会社です。昭和61（1986）年から、プラスチック射出成形機の製造・販売をしていましたが、平成4（1992）年に、他社から依頼された製造を請け負う現在の業態を取り入れ、以降、規模を拡大してきました。

また、平成16（2004）年には、顧客に提供する製品・サービスの品質を継続的に向上させていくことを目的とした国際的な規格、品質マネジメントシステムISO9001の認証

高い精度・品質で
信頼を集める

奈良県障害者雇用促進ジャーナル

はたらく

No.11 2019年2月発行

障害者雇用の取組紹介 Vol.10

シンワ精機株式会社

チャレンジすることで広がる可能性

1

障害者の雇用促進と職場定着を進めるには

奈良県障害者政策推進トップフォーラムでの講演
東京通信大学 人間福祉学部 教授 松為 信雄氏

5

はじめての障害者雇用 Vol.3

株式会社農業公園信貴山のどか村

8

特別支援学校 Vol.8

奈良県立奈良西養護学校

10

福祉事業所レストラン Vol.9

ぷろぽの食堂

12

スイーツ甲子園奈良大会グランプリ事業所紹介

受賞事業所：フレンズまきば あぐり スイーツTenter（たんて）

13

インタビュー

Interview 第9回 障害者就労支援機関を訪ねて

奈良県立高等技術専門校 販売実務科



シンワ精機株式会社



株式会社農業公園信貴山のどか村



奈良県立奈良西養護学校

「奈良県障害者雇用促進ジャーナル」は、県内の企業や経済・労働団体等の皆様に、障害者雇用施策や障害者雇用に関する制度、障害者雇用に関する先進事例などを紹介し、障害者雇用に関する様々な情報を共有していただくことができるよう、奈良県と奈良労働局が共同で発行しています。

このジャーナルを通じて、障害のある人が一人でも多く就労し、働き続けるための一助となることを期待しています。

是非ともご一読いただきまして、奈良県における障害者雇用の推進に、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

表紙写真の紹介：シンワ精機株式会社に働く仕上げ組立グループ 係長 東山充宏さん、原田将延さん、山田航平さん、代表取締役社長の東延興さん（左から）



平成28年度に入社し、仕上げ組立グループに所属する原田将延さん。プラモデルを作るのが趣味で、細かい仕事が好きだという。

どの鋼板や鋼材を、切断したり、穴を開けたり、曲げたりするなどして加工し、それを立体的に組み立て成形する作業です。今、工場では自動化が進んでいます。鉄は熱ければ歪みが出るため、機械だけで作業することは難しく、製缶は特に、人間の勘や経験が必要なのだそうです。二つめは、加工グループです。三つめは、出荷する状態まで製品を仕上げていく仕上げ組立グループです。どの現場でも、図面を理解した上での作業が求められます。

これら三つのグループの中で、『障害者雇用に向いている作業はこれ』と会社側が判断するのではなく、どの作業が適しているのかを実際に試

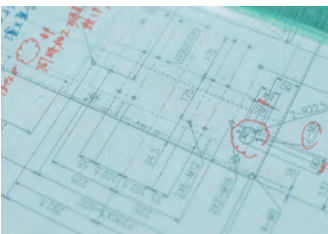
チャレンジできる環境

平成28年に入社した原田将延さん



クレーンを操作して重い商品を移動させながら仕上げ作業に従事する原田さん。グループの上司東山充宏さんは「手順を覚えるのが早い」と認める。

は、仕上げ組立グループの一員として仕事を行っています。最初は実習と同じ、機械加工完了後の部品をリユーター、サンドペーパー等を使用してバリ取り、洗浄を行っていました。大変なもので、集中力があります。仕上げ作業は単純作業ではありませんが、細かいところを見なければならぬので集中力が必要です。スキルアップを図ろうと、資格取得にもチャレンジすることになりました。



代表取締役社長 東 延興氏

自らも現場から経験を積んできたため、社員の能力・技術の向上や、可能性を伸ばすことを心かけている。「あまり社長ということ意識していません。みんなと同じです」と、社員に接するときもフラットだ。

を取得しています。半導体や産業機械、工作機械など幅広い分野から、高い精度や品質が信頼を集めています。シンワ精機では、全社員81名のうち、2名の知的障害のある人たちが働いています（平成31年1月現在）。

障害者の新規採用

だが、退職となり、障害者雇用に取り組む必要がありました。代表取締役社長の東延興氏は、「新たに障害者雇用をすることにしましたが、初めてのことでどのような取り組みをしたらいいのかわからず、ハローワークや奈良県に相談しました。そして、奈良県障害福祉課を通じて、高等養護学校の生徒さんに実習に来ていただくことになりました。それが障害のある方を雇用するきっかけでした」と語ります。

職場がどのようなところか、自分に向いている仕事は何かを学ぶ体験実習（グループ実習・個別体験実習）と、高等部3年で、卒業後の進路先として就職を目指していくための職場実習が行われています。3年生での実習は、雇用を見据えて行い、1回にとどまらず、2回、3回と期間も延長して行われる場合もあります。この中で、実習生は自分に合う会社や仕事について考え、会社も長期にわたり、実習生の様子や適性を見ることができ、採用後のミスマッチを防げます。また、誰もが働きやすい職場環境作りのきっかけにもつながります。

「実習生は知的障害があると聞いていました。『どのくらいできるのかな』という不安がありました。まずは1週間（5日間）の体験実習を引き受けました。社員たちも『わかりました。作業の準備をしておきます』と自然な感じで受け入れてくれました。作業の切り出しとして、機械加工、溶接（ガス・アーク）、機械部品の組立が考えられましたが、まずは、加工された金属部品の仕上げ作業等をやってみようということになりました。実習生も興味をもってくれたのか、その後

も2回、3回と実習に来てくれました。生徒によっては『実習してみたらしんどかった』ということもあるでしょうし、他に行きたい会社があれば、それでいいと思います。そのうえで、当社を実習先として選んでくれました。



ISO 9001は、国際的に通用する品質マネジメントシステムの規格

三つのグループに分かれる現場

シンワ精機の製造部の現場は、大きく三つのグループに分かれます。

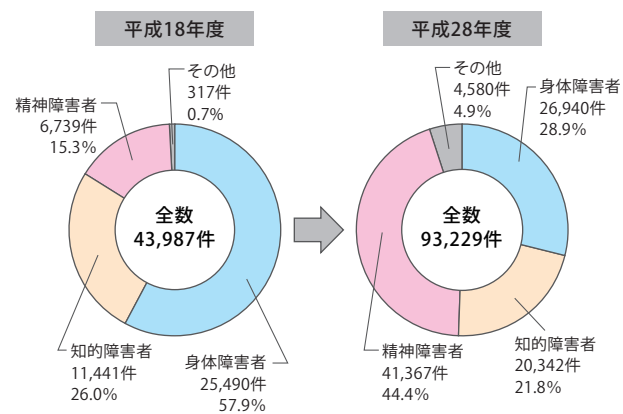
一つめは、製缶グループです。製缶とは、図面を見て完成した状態を念頭に置きながら、鉄やステンレスな

障害者の雇用促進と職場定着を進めるには

奈良県障害者政策推進トップフォーラムでの講演

東京通信大学 人間福祉学部

教授 松為 信雄 (まつい のぶお)



(図1) 障害者の就職状況

障害者の就職状況

障害者雇用をとりまく状況について見てみると(図1)、障害者雇用というのは確実に数が増えています。年次の違い、全数の違い、障害種別



奈良県では、障害のある人が誇りをもって人生を歩むことができ、誰もが社会の一員として包み込まれお互いに支え合う地域社会の実現を目指し、県内各界のトップが障害者の課題を共有し、取組を推進できるよう「奈良県障害者政策推進トップフォーラム」を開催しています。

本年度は9月3日に開催し、東京通信大学教授の松為信雄先生にご講演をいただきました。この講演内容を紹介します。



仕上げ作業で、製品を丁寧に磨き上げる山田さん。

要です。クレーン操作の前には、バランスよくクレーンに吊り下げるため、製品にワイヤーやスリングを取り付ける「玉掛け」という段取り作業が重要です。いずれも正しく操作をしなければ危険をとまなう仕事です。玉掛け作業とクレーン作業は、技能講習の学科と実技試験に合格した者が作業できます。原田さんは玉掛けとクレーンの実技・学科ともに合格して免許を取得しました。今後は、フォークリフトの免許取得も目指しています。

その背景には、社員一人ひとりの力と意欲を高め、向上しようとする職場の環境があります。図面の読み方や部品の種類についてなど、自主的に週1回の勉強会が行われ、学習内容



平成30年度に入社し、仕上げ組立グループに所属する山田航平さん。現在、玉掛けの資格取得を目指しています。

については知識や経験が豊富な先輩社員が、テキストを作成し指導しているそうです。こうした勉強会に参加するとともに、日々の作業工程をノートに記録して上司に提出し、上司が意見やアドバイスを書き加え、それを自身のテキストとして活用するなど、周囲の方々に支えられながら、原田さんは成長し力をつけています。

平成30年度に入社したばかりの山田航平さんは原田さんと同じ学校の後輩です。現在、機械加工完了後の部品をバリ取り、洗浄するなどの仕上げ作業を担当していますが、昨年12月にクレーン作業の資格を取得しました。「後は玉掛け作業の資格を早く取得したい」と意欲的です。

「誰しも自ずと興味のあること、やりたいことがあると思うのです。それを会社の中で活かしていけるように考えないといけないと思っています」

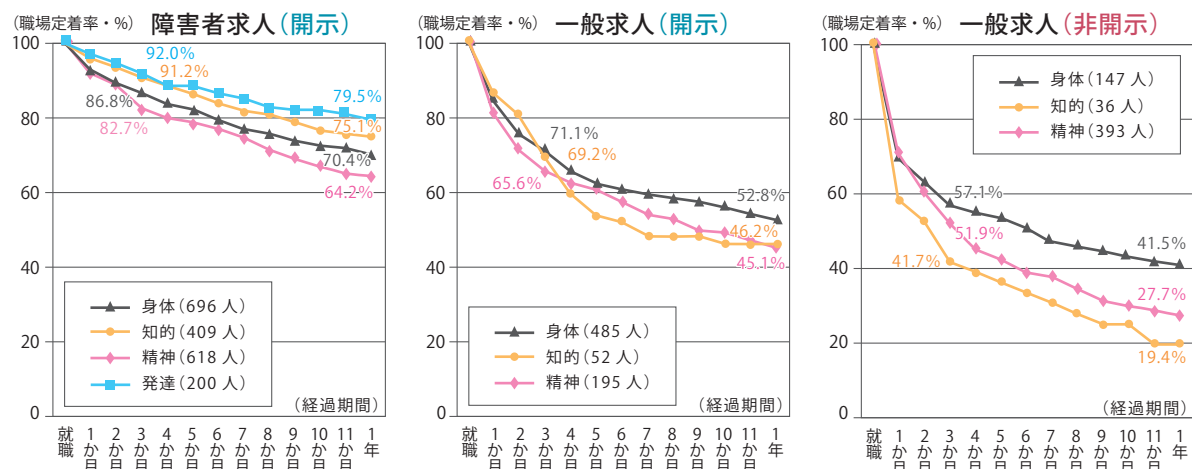
「技術は一生のもの、資格は財産になります。障害のある人の場合でも、時間はかかるかもしれないけれど、きつとできると僕は思います」。

障害のある人もない人もともに働き、成長する環境の中で、チャレンジする場を提供し、原田さんと山田さんの可能性も伸ばすことを心がけ

ハローワークの求人で見ると、障害者という枠の中で求人した場合には、定着率が結構落ちないのですが、一般の窓口の求人、つまり障害者ということを非開示で就職をすると、定着率が大幅に違います。障害というのの開示しないより、開示した方がいいのです(図2)。

障害の開示と定着率の関係

のの違い、これだけに注目してください。最も大きな変化というのは、身体障害者ではなくて、知的障害、精神障害のある人たちが増加しているところとです。今後、法定雇用率が2・2%から2・3%へと増えていきますので、精神障害者の雇用がこれから先進んでいきます。



(図2) 求人種・障害種別の障害者の定着状況

※グラフの中の数字は3か月、1年の職場定着率を記載

※『障害者の就業状況等に関する調査研究』(2017年、JEED)における調査をもとに厚生労働省が独自に作成

※一般求人については、サンプルが少ないことから発達障害者を除いて表を作成。また、知的障害者については、表には含んでいるものの相対的に回答数が少ないことに留意が必要



シンワ精機株式会社
SHINWA SEIKI

〒633-0055
奈良県桜井市安倍木材団地2丁目8-8
TEL 0744-45-5565 FAX 0744-43-3865
<http://www.shinwaseiki.co.jp/>

設立: 昭和61年3月
事業内容: 産業機械・工作機械の大型鋳物
部品加工・溶接構造部品などの機械製造業
従業員数: 81名(平成31年1月現在)

工場の仕事は、冬は寒く、夏は暑く、業務の厳しさもあります。そこでの二人の働きぶりについて東代表取締役社長は「本当にまじめに働いてくれています」と笑顔でした。シンワ精機では原田さん以降も継続的に実習を受け入れています。

これからも、新たな目標に向かってチャレンジをすることで成長を続け、会社の大きな力となっていく二人が、シンワ精機社員の一人として会社の未来を拓く存在となることに期待します。

会社の未来を拓く

ています。

メリット

- 1. ハローワークで障害者求人での応募が可能
- 2. 職場で「病気が知られるのでは？」という不安がない
- 3. 通院時間の確保や昼間時服薬の気遣いがいらない
- 4. 苦手(できない)仕事が理解されやすく、得意な仕事をいかせる
- 5. 障害者の種々の支援制度の活用

デメリット

- 1. 障害者求人は少なく、就職活動の幅がせまい
- 2. 「障害者」として見られたり、扱われる
- 3. 任せられる仕事に限られる場合がある

(図3) 障害の開示のメリット／デメリット

なぜ開示した方がいいかというと、実は開示によって、色々な企業の人たちや周りの人たちの支援の体制を明確にすることができるからです(図3)。また、支援機関からの支援がない場合の定着率は明らかに下がります。自分の障害を開示して周りから支援を受けるかどうか、企業を含めて、色々な外側からの支援のネットワークを自分の中に持っているかどうか、この二つが定着を決めていく大きな課題になってきます。

職場定着の取組

特例子会社の大ベテランが書いたものを少し引用しました。精神障害の人たちに対する徹底した雇用のノウハウです。

事業主の対応としては、特に以下ことが求められます。

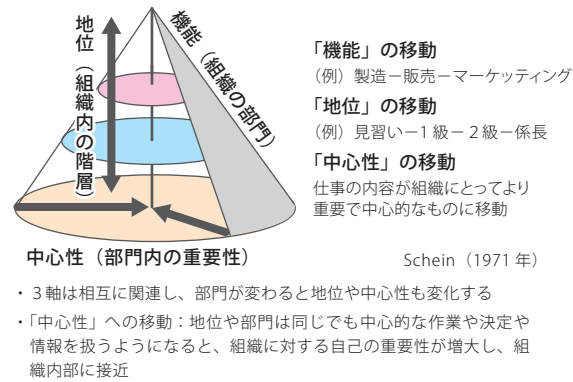
- 相談への適切な対応のための体制の整備をすること
- 採用後の合理的配慮の相談に適切に対応すること
- 相談者のプライバシーを保護するために必要な措置を講じること
- 相談を理由とする不利益な取扱いをしないこと
- 社員に広報して周知させること

また支援機関には、障害者と雇用主の双方から相談・支援が求められます。そのためには、以下のことが大切です。

- 双方の信頼性の確保と維持のために、相談に適切に対処できること
- 障害のある人の自己理解を支援し、企業との調整をすること
- 合理的配慮データベース等の最新情報を把握すること

新たなキャリアアップの考え方

障害のある人自身がキャリアというのを感じて、働きやすい職場ということで、満足して働くことができる場面を作らなければなりません。ところ



(図4) 組織内キャリアを規定する構造

- 月に一度の面談
- 目標日誌の記入
- ケース会議の実施
- 困ったら直ちに支援機関に相談
- 職場環境の整備
- 記録を残す
- 指導スタッフの育成

月に一度の面談というのは、本人自身のメンタルの色々な経過をきっちり把握するということです。精神障害の場合だと、気持ちの浮き沈みの波がとても大きいです。その変動の程度を支援者の方が知っておかないと大変です。ですから、当然月に一度の面談、簡単な面談でいいのです。また、記録を残すというのはとても大事なことです。指導記録を残すということは、担当者が代わった時に、他の人が経過記録をずっと見ることができからです。例えば、「環境が変わった、住所が変わった、上司が代わった、その時にどのような状況が起きたか、それに対してどのように対応したか」と時系列的な変化をしつかりと記録にとめておくというのが、支援者にとっても、支援者が代わった時にも一番大事な対応です。

が、発達障害や知的障害のある社員が、係長になって、課長になって、次長になってというような企業内のキャリアに当てはめるのは難しいです。発達障害や知的障害のある方にとって、従来のキャリア形成論だけでは、絶対にキャリアが上がっていきません。そこで新たなキャリアアップの考え方が必要となってきます。ここで提案するのが組織内キャリア、円錐形のキャリア形成です(図4)。この円錐形の中で、表面をどこまで覆うかというのを一つのキャリア形成論として考えたかどうかということと、この表面を覆うものは、機能です。Aという仕事ができる、Bという仕事

合理的配慮

障害者差別解消法の中で、合理的配慮の本質は何かというと、本人と事業所側との話し合いなのです。お互いの話し合いの中で、色々な妥協点を見出していきましょうということです。

合理的配慮を考える時に、ぜひとも皆さんに知っておいていただきたいデータベース『合理的配慮指針事例集』があります。これは半年に一回ずつ、厚生労働省の障害者雇用対策課が日本中の企業のデータを集めてまとめたものです。このデータベースは、事業主にとってはノウハウ、障害のある人たちにとっては到達目標、支援する側の人たちにとっては調整基準なのです。日本全国の障害者雇用のノウハウをそのまま持ってくるので、それを見れば、どんなところに問題があるのか一挙にわかります。私が企業に対してお話ししてきた中で、不安と負担という考え方が昔から出てきます。企業にとって、一番大きな不安の解消というのが、同じ事業体で、同じ業種で、そして同じ障害者を雇用しているたくさんの方の成功事例なのです。この成功事例があれば、「うちの

ができる、Cという仕事ができる、と多能工化できるようにしたがつて、本人にとつてキャリアが上がってきたとみてはいかがでしょうか。

そして、二つめは中心性です。仕事の世界で、「あなたのこの仕事が終わらない限りは、この全体のラインは動きませんよ」ということがあります。元々、ラインの末端に入ってから、この人が中心的な仕事に移っていく。これも十分、キャリア形成論として考えていくべきでしょう。

機能的な多能工化、中心化へのステージの移動によって、スタッフとしてキャリアを積み上げていくことができます。企業内の障害者のキャリアというのは、このように多面的な部分でキャリアアップを考えていくことが必要になってくると思います。

支援機関とのネットワーク作り

企業自身がノウハウを持っていない場合、障害のある人を支えるネットワークが大変大事になります。ネットワークで一番大切なのは支援機関とどのように連携していくのかということです(図5)。本人をバックアップする支援機関を必ず作ってください。面接

会社の人材規模で、今、雇おうとしている障害者は、こういった事例でこういう取組をしているのだ」というように、企業にとって、障害者雇用に対するノウハウそのものになるのです。ところで、合理的配慮で、障害のある人には、合理的配慮の申出を行うことが求められます。配慮を企業に伝えるために、以下のことが必要になります。

○自分の得意・不得意な分野を自覚し、それを体験として理解できていること

自己紹介書、自分自身のできること・セールスポイント、苦手なこと、機能障害の特徴など、しっかりと目に見える形で文章化する

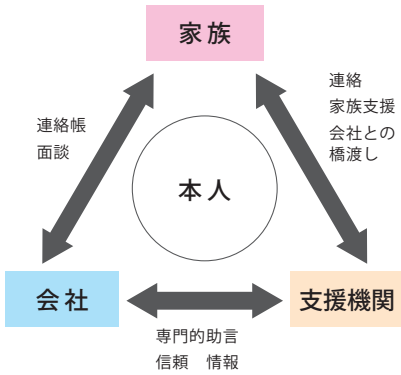
○不得意な分野への対処方法を知っており、その解消に向けて努力していること

苦手なこと、機能障害に対する自分自身の対応の仕方、工夫、努力の内容など、目に見える形で文章化する

○これらを他者に説明でき、必要に応じて援助を要請できること

必要な支援、介護、場合によっては色々な面について見える化する

の時に、本人だけを面接するのではなく、本人を含めた支援機関にも入っていただき、どのような支援機関に支援をしてもらっているかを確認してください。



(図5) 企業を支える支援機関との連携

講師プロフィール



松為 信雄 (まつい のぶお)

東京通信大学 人間福祉学部 教授
神奈川県立保健福祉大学 名誉教授

厚生労働省労働政策審議会障害者雇用分科会委員、文部科学省特別支援教育総合研究所運営理事外部評価委員長、高齢・障害・求職者雇用支援機構外部評価委員、日本職業リハビリテーション学会顧問、日本精神障害者リハビリテーション学会編集委員、日本発達障害学会編集委員、内閣府障害者政策委員会委員。なお、一億総活躍国民会議専門委員も務めた。

<著書>

- 「発達障害のある子の進学と就労」(編)成美堂出版
- 「発達障害の子どもと生きる」(単著)幻冬舎
- 「職業リハビリテーション入門」(編)協同医書出版
- 「職業リハビリテーション学」(編)協同医書出版 他多数

雇用の現場 信貴山大門ダムエリア



この日の作業は、パンジーの苗の花壇への移植。



信貴山大門ダムエリアは、奈良県の「なら四季彩の庭」にも選定されている。



白砂さんの得意な消しゴムハンコ作品。



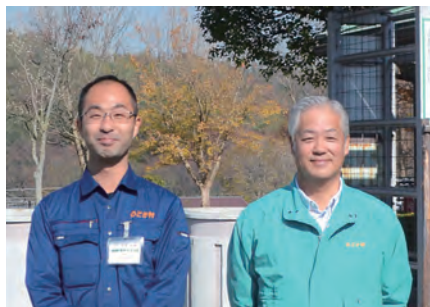
白砂さんが一緒に働く花部の藪本真哉氏(上)と、城戸好子氏(下)。



のどか村では、四季折々の味覚狩りができます。いちご狩りは、人気が高いです。



一日500個も生まれる平飼卵。この卵を使ったプリンを開発。早くから6次化を進めてきた。



代表の奥田哲生氏(右)と、白砂さんの上司で総務部の平井伸明氏(左)。



白砂さんに聞きました

初めて実習に来たときは、お弁当の味が感じられないほどに緊張しましたが、園芸作業などが楽しかった。雰囲気自分に合っているような気がしたので、内定が決まった時は感動しました。



園内で販売される花の寄せ植えは、白砂さんのセンスが活かされています。

実習生の受け入れ

した。花の植え替えや水やりという仕事であれば、障害のある方にも可能ではないかと思っていました(奥田代表取締役)。

まさに、そのような時に高等養護学校の先生が、ハローワークの職員と一緒に職場実習の開拓に來られました。花に携わる仕事を希望する生徒と動物に携わる仕事を希望する生徒の実習依頼があり、2名の生徒を受け入れました。そのひとりが白砂春香さんでした。穏やかな性格で、学校での環境サービス授業では園芸が好きでした。消しゴムハンコの作品を作るのが得意でアートのセンスもあります。

高等養護学校3年の6月に最初の実習を行いました。その後の2週間程の実習を経て、信貴山のどか村が『自分に合っている』と感じた白砂さんは卒業後の平成30年4月からの雇用が決まりました。

現在の主な担当業務は、花の種から苗を育てるポットへの種の植え付け、水やりや施肥、花壇への植え付けなどの仕事です。「ひとつのことに集中して作業をするのが楽しい」と感じるそうです。白砂さんが作業を行った大門ダムの花壇では

はじめての障害者雇用 Vol.3

雇用した事業所

株式会社 農業公園信貴山のどか村

就職した人

白砂 春香さん

知的障害 19歳 主な業務 園芸に関する作業

株式会社農業公園信貴山のどか村(以下「信貴山のどか村」)は、大阪市内・奈良市内から1時間程度という立地を生かし、昭和62年に設立された農業公園です。果実や野菜などのもぎ取り体験、そば打ちやこんにやく作りの体験教室、レストランの経営などを行っています。平成30年の春に高等養護学校を卒業した白砂春香さんが就職しました。



大門ダムの花壇は、四季の花で彩られています。

自然体験のできる農業公園

大阪府との県境にある三郷町に位置し、観光地の信貴山に近い場所にあるのが、信貴山のどか村のある南畑地域です。寒暖差のある気候により美味しい野菜ができる一方で、小規模な農家が多く集約化が難しい所でした。農家出身の若者はサラリーマンとなり、家業を継承する人が少なくなっていました。「このままでは農地が荒れてしまう」と危機感を持った地元の農家52戸の人たちの出資によって設立されたのが、「有会社(当時)農業公園信貴山のどか村」です。

広大な芝生広場、レストラン、バーベキュー場、果実や野菜などのもぎ取り体験ができる農場等の施設があり、一年を通じて自然に触れることができます。新聞やテレビでも度々取り上げられる人気のスポットで、多い日には1日約5000人もの人が訪れます。

代表取締役の奥田哲生氏は、創立時の

メンバーが高齢化する中、「父親たちが作った会社をなんとかしなければ」と一念で転職して継承し、平成20年に株式会社化しました。

障害者雇用のきっかけ

信貴山のどか村が障害者雇用を考えるきっかけとなったのが、三郷町が推進していた「観光と福祉の連携プロジェクト」が国に採択され、地域の活性化・雇用の拡大に向けて取り組んだことでした。年間を通して観光客の方が信貴山を訪れ、大門ダムや公園の美しい景観を楽しんでいたように、花壇を整備して四季折々の花を植えようというものでした。三郷町から出る生ゴミを液肥化し、有効活用して花苗を育成するとともに、その仕事で障害者雇用を行うことを考えました。

「三郷町が集めた一日500キロの生ゴミを翌日に液肥化できるリサイクル設備が整い、次に障害者雇用について取り組み

美しい花が咲き誇り、ダム周辺の景観を華やかに彩っています。

また、園内が忙しい時期には、レストランでのピザのトッピング作業等を行うこともあります。

「自分に合う」職場で

上司で総務部の平井伸明氏は、「最初の頃はジョブコーチのサポートがありました。通勤時の満員バスが苦手であるなど彼女が困っていることや保護者の要望を伝えていただいたので、それらに沿って対応することができ、とても助かりました」と振り返ります。

奥田代表取締役も「白砂さんは一生懸命やってくれています。一緒に働いている職員も優しく見守ってくれています。その人の興味や適性に合った職場が提供できれば、何の隔たりもなく働いてもらえるのではないかと思います」と語ります。

専門家や同じ職場で働く方々のサポートにより、「はじめての障害者雇用」が支えられていることを改めて感じた職場でした。



株式会社 農業公園信貴山のどか村
〒636-0833
生駒郡三郷町信貴南畑1丁目7番1号
TEL 0745-73-8203
http://www.sigisan-nodokamura.com
果物・野菜・鶏卵などの味覚狩りやこんにやく作り体験、グラススキー場やデイキャンプ場を運営。従業員数は55名(うちパート39名)

奈良県立奈良西養護学校

『ありがとう』の言葉が
生徒たちの自信と地域の助けにつながる



奈良西養護学校の校庭

奈良市帝塚山の閑静な住宅が並ぶ丘の上、もと県立富雄高校だった校舎を改修して平成20年に開かれたのが奈良西養護学校です。この学校に通うのは、知的障害のある小学部63名、中学部49名、高等部98名の児童生徒たち。奈良市、生駒市という都市部を校区とするだけに、県内で最大規模です。

高等部卒業後の生徒たちの進路は、企業へ直接就職することは少なく、生活介護等の福祉サービスを利用することが多いです。そんな同校では、「はたらく」ということをどうとらえ、どんな取組が行われているのでしょうか。

地域とともに

周辺には、約1500世帯と14の自治会があり、それを束ねる自治連合会があります。同校では、地域と

ともに歩んでいけるような学校を創立当初から目指してきました。

その中で、「この学校を地域福祉の拠点として考えていけたら」と理解を示したのが当時の自治連合会です。「地域とともに」というビジョンは、地域へ働きかけていく同校の取り組みと、かつて住宅開発され今高齢化が進む地元との重なりの中で進んできました。

学校の外で育てる力

小学部、中学部、高等部と学年が進むごとに、地域との関わりは多様化していきます。特に高等部では、授業の一環として、また週末のボランティア活動として、保育園や幼稚園、介護老人保健施設、自治会など地域との連携は欠かせないものになっています。

進路指導主事の田和成司教諭は、

地域課題とともに

地域とつながる行事の一つが、毎年秋に同校を会場にして開催される「地域ふれあい文化交流会」です。もとは敬老会が前身ですが、「より広く地域の住民が集いふれあう場」と地域から声がかかり、第3回からは同校を会場に実施されています。そして、その翌年からは高等部生徒全

と手応えを語ります。

田和教諭は、「生徒たちは卒業後も、ぐんぐん成長します。将来、その子が生き甲斐をもって生活していく力をどのようにつけていくのかを考えたい。一般就労することを急ぐあまり、結果続けていくことができなくなるケースも考えられるので、自立支援や生活介護など自分のペースに合ったところからスタートし、成長しながらステップアップする進路選択も大切なことだと思います」と、生徒たちの長く続く将来に目を向けています。

「はたらく」とは、誰かの役に立ち社会に貢献することで喜びを感じ、生きる力の糧となることを改めて感じさせられました。



授業として取り組んできた障子張り。最初は学校内で希望を募り、実習を重ねた。



毎年秋に開催される地域の催し 帝塚山地区ふれあい文化交流会



昨年10周年を迎えた奈良西養護学校

10周年記念キャラクターならにしー



生駒市・奈良市から5台のスクールバスで通学しています。

授業・年中行事



小学部：「からだリズム」の授業風景・プール学習



中学部：運動会・「しごと」の授業風景



高等部：実習報告会・社会参加学習

奈良県立奈良西養護学校

〒631-0066 奈良市帝塚山西2丁目1-1
TEL 0742-45-1421 FAX 0742-45-1427

<http://www.nps.ed.jp/naseiyou/>



前列左から：竹本貞一校長、前川裕道教頭
後列左から：進路指導主事 田和成司教諭、
進路支援部長 工藤奈穂美教諭

奈良県立高等技術専門校 販売実務科

公共職業能力開発施設である奈良県立高等技術専門校では、学校を卒業したり、再就職を希望したりする人が、職業に必要な技能や知識を学び、就職を目指しています。また、職業訓練期間を通して就職活動の支援も行っています。

この中に、知的障害のある就労希望者のための職業訓練コース『販売実務科』があります。



後列左から：就労支援アドバイザー 門城宏隆氏、訓練指導員 山本和彦氏、専門指導員 安田寛二氏。前列左から：生活指導員 釜山典子氏、訓練指導員 長阪ひとみ氏、訓練指導員 岡口敏子氏



販売物流の実習の様子

販売実務科とは
平成18年に開設された販売実務科は、知的障害のある就労希望者が職業に必要な様々な訓練を受けることができる1年間の職業訓練コースです。定員は20名です。就職に必要な基礎知識、基礎技能の習得を図り、職業的自立と社会参加を目指しています。

療育手帳もしくは、障害者職業センター所長が発行する判定書を持っている方が対象で、中学校または特別支援学校中学部卒業見込み以上であれば受験できます。近年は、入校生の約8割が、特別支援学校、中学校、高等学校、短大、大学の新卒者となっています。職業訓練に必要な実費（自己負担金）を除き、受験料、入学金、授業料は無料です。

個々の能力や適性に応じた職業訓練だけでなく、ハローワークと連携しながら、カウンセリングや実習先の選定な

ど、それぞれの職業訓練生が自分に合った職業に就くためのサポートも行っています。

実際に就職した環境を想定
具体的には、まずコミュニケーションや身だしなみなど、社会生活に必要な力を身につけます。その後、『販売物流』（実際の商品を使つての販売や物流業界の作業）、『福祉・生活』（ベッドメイキングなど介護補助の作業）、『清掃』（用具の取り扱いや清掃方法）、『パソコン』（エクセル、ワードの基本操作）、『オフィスワーク』（文書の仕分け、ファインリング、伝票記入、発送等）といった実践的な職業訓練を、就職先の職場環境を想定して実施しています。また、当科では、パソコン検定やフォークリフト、刈払機といった資格取得のための機会も設けています。

就職に向けて、当科では職業訓練期間中に雇用を見据えた職場実習を何度も行います。まず5日間程度の職場体験実習から始め、次に見極めのための職場実習を2〜3週間程度行い、最終確認のための職場実習を1ヶ月〜1ヶ月半、事業所にお願ひしています。その結果、3月修了を迎えずに年度途中で就職する方が7割を超えています。

奈良県立高等技術専門校



〒636-0212
奈良県磯城郡三宅町石見440
TEL 0745-44-0565
FAX 0745-44-1057
開校時間
平日 8時30分〜17時15分
URL
<http://www.pref.nara.jp/1755.htm>

就職後も継続するために
専門指導員の安田寛二氏は、「就職すれば終わりではなく、長く職業生活を送ることが修了生にとっても事業所にとっても有益なことなので、実践的な職業訓練を積んだ修了訓練生たちが企業に貢献できるようマッチングとアフターフォローには力を入れています。当科の職業訓練生にご関心のある事業所はぜひお問い合わせをしていただければ」と語っています。

福祉事業所 レストラン

障害のある人たちが働いている
福祉事業所が運営しているレストランを紹介します

Vol.9



ぷろぼの食堂

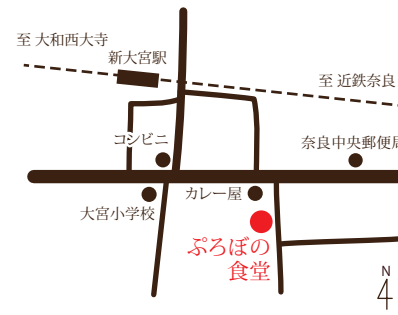
ぷろぼの食堂は新大宮駅から徒歩5分、ぷろぼの福祉ビルの1階にある木に囲まれた暖かな空間が自慢の食堂です。

「ご飯とおみそ汁が美味しい食堂」をコンセプトに大和高原で採れたお米を玄米で仕入れ、都度、精米してから炊いたご飯や、無農薬栽培大豆で仕込んだ味噌で作った味噌汁などこだわりのランチが楽しめます。

夜には奈良の地酒を中心に200種類以上のお酒を楽しめるほか、パーティーや、音響設備を利用したライブでもご利用いただけます。

ぷろぼの食堂 (社会福祉法人 ぷろぼの)

住 所 奈良市大宮町3丁目5-41
ぷろぼの福祉ビル1階
定休日 日曜日・祝日・月曜日夜・土曜日夜
時 間 昼営業：11時30分〜14時
夜営業：17時〜22時
電 話 0742-81-3335
アクセス 近鉄新大宮駅から徒歩5分
JR奈良駅から徒歩10分



メニュー

【昼営業】
日替わり定食・カレー 各600円

【夜営業】
おにぎりとおみそ汁セット 300円
一品料理 300円〜
日本酒各種 350円〜
日本酒3種のみくらべセット 500円 ※価格は消費税込み

夜営業では店主が釣った旬の魚が楽しめることも!?

第10回 スウィーツ甲子園 奈良大会 グランプリ事業所紹介

フレンズ まきば あぐり スイーツTenter(たんて)



デリスブルーベリーショコラ 460円

Other Menu

苺ショートケーキ 370円 とうける苺プリン 300円
古都華タルト 450円 モンブラン 380円
苺ショコラ 380円 ※価格は消費税込み

スイーツTenter(たんて)は上牧町にある小さなケーキ屋さんです。

自家農園で収穫した果物を中心に、奈良県産の卵を使うなど味だけではなく素材にもこだわっています。

昨年行われた「第10回スイーツ甲子園奈良大会」では、デリスブルーベリーショコラがグランプリを受賞しました。

お誕生日、記念日など特別な日にはホールケーキのオーダーも可能です(4日前までにご注文ください)。



住 所 〒639-0201
北葛城郡上牧町片岡台
2-6-10 ダイコープラザ1F
定休日 火曜日・第二水曜日
時 間 11時〜18時
電 話 0745-32-2080
アクセス 近鉄大輪田駅から徒歩16分
駐車場17台あり(他店と共用)

